

伊丹ルーテル教会 復活節第三主日礼拝

2020年4月26日

父と、御子と、聖霊の御名により、**アーメン**。

前奏： Christus, der ist mein Leben 「キリスト、我がいのち」

招きのことば：詩編 116 編より

わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き わたしに耳を傾けてくださる。

生涯、わたしは主を呼ぼう。

死の綱がわたしにからみつき 陰府の脅威にさらされ 苦しみと嘆きを前にして

主の御名をわたしは呼ぶ。「どうか主よ、わたしの魂をお救いください。」

主は憐れみ深く、正義を行われる。…弱り果てたわたしを救ってくださいる。

わたしの魂よ、再び安らうがよい。主はお前に報いてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、

父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、

からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは弱り果てた者を顧みて、救ってください。よみがえられたイエス様によって、暗闇に光をあたえ、夜をあなたと交わる豊かなときとしてくださいます。今朝も復活の主を信じる信仰で満たしてください。

新型コロナウイルスの感染拡大によって多くの方々が苦しみの中におられます。私たちも日々大きな恐れの中におられます。私たちに助けてください。病気の治療にあたっている方々、生活の必需品を整えるために日夜働いてくださっている方々の労苦を癒やし、お支えください。今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。この礼拝ができるようにかげにあって力になってくださった方々を祝福してください。私たちは復活の主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

この祈りを私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：第1ペテロ 1:17-23

また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはならず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。

福音書朗読：ルカ 24:13-36

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけがご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。

それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つげずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたとのです。仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

説教「目が開けイエスだとわかった」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

今朝の礼拝は、復活節第三主日の礼拝です。私たちの信仰の中心は、イエス様が、十字架にかかって私たちの罪を赦してくださり、復活して私たちに新しいいのちをあたえてくださる、ということです。さきほど使徒信条でもたからかに告白したところです。今朝も復活の主をおぼえるご挨拶をしましょう。

「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

あなたや私にとって、イエス様の復活は大切な信仰告白ですが、最初の弟子たちはすぐに信じることができませんでした。日曜日の朝早くイエス様の遺体が葬られたお墓に行ったマグダラのマリヤは、お墓がからっぽになっているのに驚いているとイエス様があらわれて呼びかけてくださいましたが、すぐにイエス様だとわからなかったと聖書に書かれています。私たちも理解を超えた、これまで経験したり、聞いたことのないような大きな出来事に出会うと「まだ信じられません、本当にそんなことがあるのでしょうか」と思いますね。

イエス様が復活なさったその日、ふたりの弟子がエルサレムから西へ10キロほど離れたエマオという村にむかって歩いていました。お弟子たちですから、イエス様が金曜日に十字架で苦しんで死なれたことを知っていました。またその日の朝、お墓にいったマリヤたちが「イエス様は生きておられる」と言っていることも知っていました。

それでは弟子たちは喜んでいましたか？「ハレルヤ！イエス様がおっしゃっていた通りだ、十字架で私たちのかわりに罪の裁きをお受けくださって、約束通り3日目によみがえってくださった！ハレルヤ！」と手を取り合って神様を賛美していたでしょうか。いいえ。彼らは暗い顔をしていました。エルサレムで起こったできごと、イースターの朝のできごとを全て見ていた、聞かされていたのに、彼らは悲しみ、がっかりしていました。希望のイエス様が死んでしまわれたという絶望と、意味不明の復活の話題で他の弟子たちは平常心を失っている。安息日があるのを待ってふたりは都エルサレムから離れていきました。もう終わりだ、とため息がでるような二人でした。そんなことを話しあいながら歩くふたりに、実際によみがえられたイエス様ご自身が近づいてきて一緒に歩き始めた、と書いてありましたね。ふたりの目は遮られていてイエス様だとわからなかった、ということですから、マリヤさんのときとよくにています。

弟子のくせに情けないな、と思われませんか？でも考えてみてください。これまで期待して従ってきたイエス様が十字架でむごい死を遂げられたことで大きなショックを受けているのに、そのイエス様がよみがえられた、ということです。私たちも「復活の主」などと簡単に言いますが、これはあまりにも私たちの理解と経験とかけ離れた大きな出来事です。でも、それがもし本当なら神様が神様に逆らう罪深く弱い人類のために罪を赦して救うためにひとり子をお与えになって、罪と死との力を克服されたのです。歴史を変える世界的、宇宙的規模のできごとです。神様がイエス様によって私の罪を赦し、新しくしてくださるのは夢物語ではなく現実の事実です。信じる者は、死んでもおわらない新しい命をいただきます。そして、これからの人生はすべて新しくされて愛と真実に生きていくのです。

イエス様は、彼らに「何を話しているのですか？」とお尋ねになります。脇腹や手の傷跡を見せて、復活した自分がここにいるぞ、と主張をするのではなく、むしろ、悲しんでいる弟子たちの心をお聞きになっておられます。弟子たちは驚きながらたくさん話しました。

イエス様はすっかりお話しをきいてから、弟子たちに少し強い調子でお話しになりました。それは彼らの姿をそのまま描いていることばでした。旧約聖書も、イエス様の語られたことも知り尽くしていたのに、信仰をもって受け止めていなかった、心の鈍い、信仰のない彼らの姿を示されました。そして、旧約聖書のイエス様のみ救いについて書かれていることを丁寧に話しました。

弟子たちはもっとお話しを聞いていたい、このように聖書のすべてがイエス様を指し示していて、イエス様によって実現しているというお話しをもっと聞いていたい、と思いました。それでエマオの村に近づいたとき、まだ先へ行こうとされているイエス様にふたりは「私たちと一緒に泊まりください」と頼んだのです。この祈りを私たちは大切にしたいですね。「私のところにとどまってください」という祈りです。彼らは無理に引き留めたと書いていますね。

今もイエス様は御言葉によってあなたのところに来てくださいます。変わりゆく厳しい世界、神様を信じる信仰が何の力になるのか、私たちは見放されているのではないのか、自力でがんばっていかうにもこれからどうしたらいいのか。私たちは十字架と復活の圧倒的な事実を知っているのに、それがあまりにも大きすぎて心に受け止めきれません。またそれが現実は何の慰めになり力になるのか、自分の知恵では計り知ることができません。イエス様から心は離れていきます。友とイエス様のことを話すときも、実生活とは違う次元の、無力で、意味の感じられない信仰が話題になります。でも知ってください。イエス様はまず、そのような私たちの心に目を留めてくださって、近づいてくださり、耳を傾けてくださいます。

イエス様は、私たちを認めて受け入れてくださってから、私たちの忘れていたことをしっかりと思い起こさせてくださいます。気に留めずにいたけれど、知っていたけど、聞いてきたことだけどたいせつなことを、聖書の御言葉からもう一度丁寧に思い起こさせてくださいます。信仰が目覚める前に、イエス様は御言葉を語ってくださるのです。

夕食を一緒にたべるとき、祈って賛美してパンを裂かれたイエス様を見て、ふたりの弟子たちは、「あっ、イエス様だった！」と気づきました。もう肉眼で見なくても御言葉の約束を信じる心が与えられたのでイエス様は見えなくなりました。さらに、「あのとき、イエス様に道々御言葉を聞いていたとき、心は燃えていたね！」と喜び合いました。今も聖書の御言葉と聖餐の食卓でイエス様はご自分を私たちにあらわし、心を燃やしてください。彼らは夕食を置いて、そこに泊まらずに弟子たちのいるエルサレムに急いで帰って行きました。復活のイエス様に出会ったことをみんなに聞いてもらいました。

だから、私たちは御言葉を聞き、また喜んで学び、よく理解して私たちがそこから影響を受けるようになりましょう。一緒に泊まりください！とたのんだ弟子たち、主よ、ともに宿りませ、Abide with me、stay with us という気持ちです。

私たちが弱いとき、今、神様から遠く離れているな、と思うときこそ、御言葉に聞きましょう。御言葉の語られる交わりに集い、復活の主に出会ったことを分かち合いましょう。今も生きて働いてくださるイエス様は来てくださいます。イエス様はあなたに御言葉をもって信頼する安らぎと喜びを与えてくださり、その信仰を強めてくださいます。主よ、ともに宿ってください。人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをまもってください。アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

讚美歌 39 番 「主よ、ともに宿りませ」 1, 2, 4, 5 節

- ・日暮れて四方（よも）は暗く わがたまはいと寂し
よるべなき身のたよる 主よ ともに宿りませ。
- ・人生（いのち）の暮れ近ずき 世のいろかうつりゆく
とこしえにかわらざる 主よ ともに宿りませ。
- ・死の刺（はり）いずこにある 主の近くましまさば
われ勝ちてあまりあらん 主よ ともに宿りませ。
- ・十字架のくしきひかり 閉ずる目にあおがしめ
みさかえに覚（さ）むるまで 主よ ともに宿りませ。 アーメン。

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄の讚美歌 541 番

父、御子、みたまの大御神に、ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。アーメン。

祝福のことば

仰ぎ来い願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき御交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。アーメン。

アーメン三唱、後奏